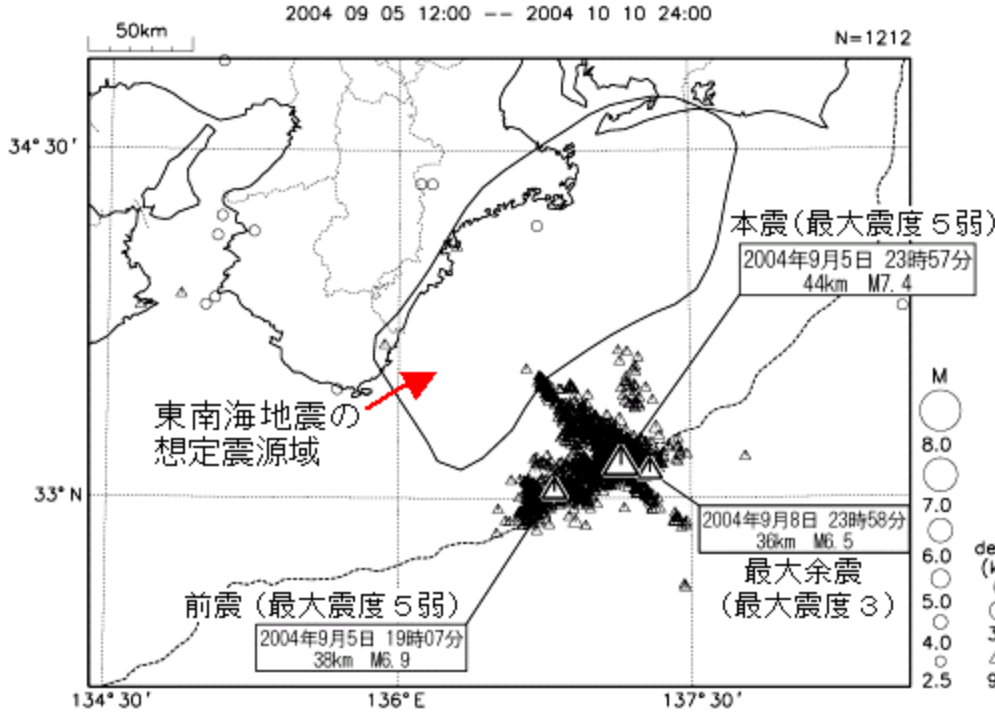


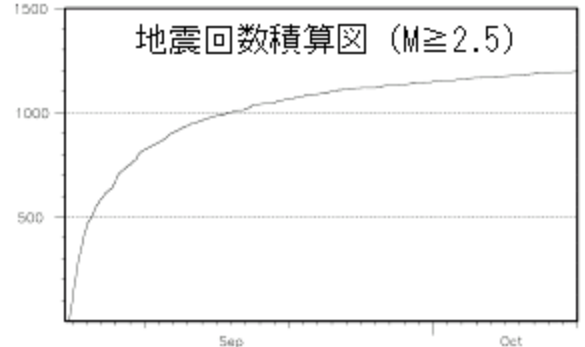
# 9月5日 紀伊半島南東沖の地震

震央分布図 (2004年9月5日12時以降、 $M \geq 2.5$ )

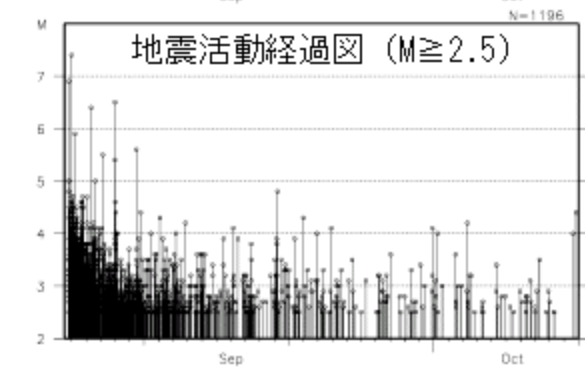


2004 09 05 12:00 -- 2004 10 10 24:00 N=1196

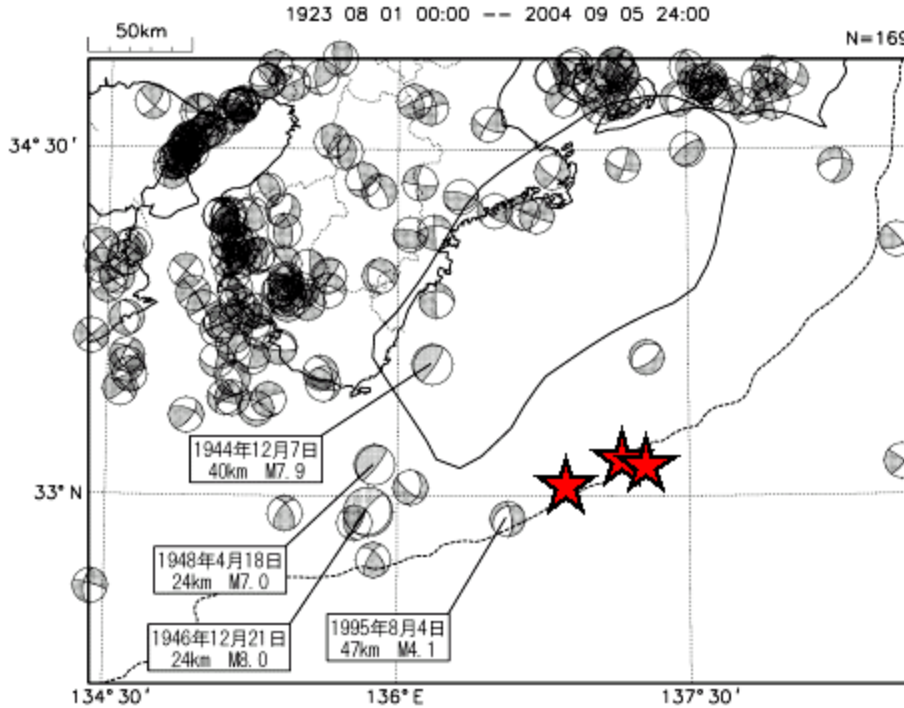
地震回数積算図 ( $M \geq 2.5$ )



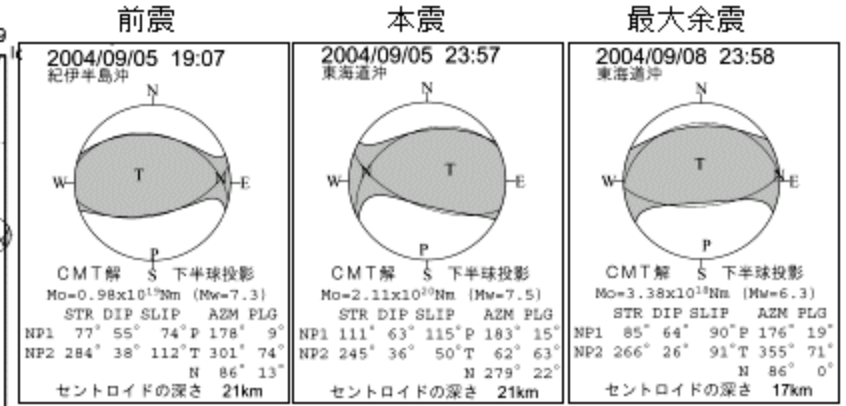
地震活動経過図 ( $M \geq 2.5$ )



発震機構分布図 (P波初動解)  
(1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ 、深さ60km以浅)



今回の地震の発震機構 (CMT解)



2004年9月5日23時57分に紀伊半島南東沖 [東海道沖] でM7.4 (最大震度5弱) の地震が発生した。この地震に伴い、串本で高さ0.9 m、神津島で高さ0.8 mの津波を観測した。

また、その約5時間前の19時07分には、本震の西南西約40 kmでM6.9 (最大震度5弱) の前震が発生し、神津島で高さ0.5 mの津波を観測した。

地震活動は、前震-本震-余震型で推移し、8日23時58分には余震域の東端でM6.5 (最大震度3) の最大余震が発生した。その後、余震活動は順調に減衰している。

発震機構 (CMT解) は、いずれも南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。

今回の活動の周辺では、1944年12月7日に東南海地震 (M7.9)、1946年12月21日に南海地震 (M8.0) の地震が発生している。

震央分布図 (1885年1月以降、 $M \geq 6.0$ )

